

宮下病院建替え基本・実施設計業務委託 公募型プロポーザル審査委員会 審査講評

1 審査経過

本事業の基本・実施設計業務委託に係る公募型プロポーザルでは、関係する専門分野を代表する7名の審査委員による審査委員会が設置され、募集要領の策定から最終審査に至るまで、慎重かつ厳正な審議を行いました。

(1) 第1回審査委員会

日程：令和5年7月6日（木）

場所：三島町町民センター（福島県大沼郡三島町）

議事：委員長・副委員長を選出した後、審査スケジュール、募集要領、審査の進め方等について審議。

(2) 第2回審査委員会（一次審査）

日程：令和5年10月6日（金）

場所：杉妻会館（福島県福島市）

議事：失格条項等の該当の有無について確認した後、6者の提案書全てについて審議し、評価が高い上位5者をヒアリング要請者として選定。

(3) 第3回審査委員会（二次審査）

日程：令和5年10月30日（月）

場所：ラコパふくしま（福島県福島市）

議事：各提案者のヒアリング（プレゼンテーション及び質疑・応答）後、各提案を審議し、全会一致で最優秀者及び次点者を決定。

2 提案課題

- (1) 地域の人々の安全・安心を支える施設の提案
- (2) 奥会津地域の特性と調和し、特別豪雪地帯を考慮した施設の提案
- (3) 災害や感染症に強い施設の提案
- (4) 県産材の積極的な活用やエネルギー性能が高く持続可能性に優れた施設の提案
- (5) 将来的な施設の可変性に関する提案
- (6) その他の提案

3 審査結果

最優秀：はりゅうウッドスタジオ+ナスカ設計共同体

次 点：有限会社辺見設計

4 審査講評

今回の公募型プロポーザルは、柳津町、三島町、金山町、昭和村の4町村の医療の拠点となる、32床の病院から19床の有床診療所への移転建替えに当たり、人口減や限られた医療従事者等、診療圏の状況を踏まえて、新施設に求められる機能を十分に理解し、6つの提案課題について、基本・実施設計に具体的に反映できる優れた技術力や創造力を有する設計者を選定するものでした。

特に、地域の高齢化の進行や、職員確保においてもさらなる課題を抱えることが予測される中で、将来の施設の可変性も含めた本施設があるべき姿、豪雪地域における建築のあり方等について各提案に注目しながら議論しました。

一次審査は参加があった6者については提案書により、また二次審査対象の5者については提案書と取組体制説明書、さらにはヒアリングの内容をもとに審査を行いました。

いずれの提案も6つの課題に対して真摯に向き合い、意欲的な提案をしていただきました。それぞれ評価すべきポイントがありましたが、提案の具体性やその実現性においては差が見られ、それらが最終的な評価の差につながりました。

最優秀の提案は、すべての課題に対してバランス良く検討されていました。プロポーザルらしい具体的で意欲的な提案を織り交ぜながらも、その実現性も十分に期待できる、設計者の高い資質と経験値を感じさせる提案書とプレゼンテーション（発表と質疑・応答）でした。審査員全員が1位の評価をしました。以下、個別の講評は、二次審査の対象となった5者について述べることにします。

なお一次審査では、1者の提案書において、様式の一部改変（受付番号欄の削除）を確認しました。同提案の扱いについては慎重に審議しましたが、結果的にはそれにより記述量等に差が生じたわけではなく、評価において不公平な状況が生じていないことを確認し、失格や減点の対象とはせずに評価対象として扱ったことを申し添えます。

【最優秀】受付番号6 はりゅうウッドスタジオ+ナスカ設計共同体

各課題に対してバランスよく、具体的かつ実現性の高い、質の高い提案でした。特に評価された点としては、施設特性・地域特性を踏まえた木構造とRC構造による構造の提案、将来的な可変性について検討された病棟・病室計画、分かり易い外来動線、冬期の除雪に配慮した駐車場配置、感染症への対応を意識した陰圧装置や換気への配慮、雪国の地域特性を熟知したディテールや仕掛け、職員連携などを促すワンルーム執務室の提案、全体を通して十分意識したコスト対応などがあげられます。また、独

自の提案をしながらも、今後の設計プロセスにおいて議論を促す、また議論する余地を残すところも、プロポーザルらしいものとして好感を与えました。

一方で、他職種間で理解醸成が必要となるワンルーム執務室のあり方や、エレベーターの配置や基数、給食の配食動線などについては、さらに丁寧な検討が必要となるとの意見もありました。事業者・職員との丁寧な対話による今後の設計と、提案の実現を大いに期待いたします。

【次点】受付番号5 有限会社辺見設計

各課題に対して密度の高い適切な提案がされていました。特に評価された点としては、諸室配置において柔軟性のある平面計画、提案性のある回遊型動線、病棟における可変性の具体的な提案、多目的室の配置、災害への対策提案など随所に個性を出した点などがあげられます。ヒアリングにおける的確かつ意欲的な回答も評価されました。

一方で、搬出土や調整池・池塘の対応、車の進入動線など懸念や疑問もあり、ヒアリングを通してそれらを解消するには至りませんでした。総合的な評価において、最優秀案に及ばず次点となりました。

(以下、受付番号順)

受付番号1 有限会社大野建築設計事務所

感染症に対する工夫や、雪対策などにおいては、高く評価されました。ヒアリングにおいては、技術的な回答は一般的な回答が多かった印象ですが、誠実さは大いに伝わりました。全体的には理解度の高い提案であると評価されました。

一方で、駐車場や患者動線についての懸念、病棟プランや病室の計画、コストコントロール、維持管理面、特徴的な桐下駄タワーの実現性などにおいて懸念がありました。

受付番号3 株式会社清水公夫研究所

風向きや雪に配慮した建物配置やピロティ設置などの対策、少ないスタッフで対応できる動線計画に対しても配慮されていて評価されました。おおむね各課題については適切な提案がされていました。

一方で、屋根の形状、将来の施設像の具体、従来の大病院を模した平面計画、駐車場までの距離や建物内部の動線処理、在宅医療部門や多目的ルームの配置や使われ方においては課題も見受けられました。

受付番号4 株式会社山口設計

地域に密着した開かれた提案の着眼点は評価されました。地域特性、県産材を活用した取組の提案にも意欲を感じました。また、ユニバーサルデザインへの丁寧な配慮も好感が持たれました。

平家の提案など独自性がある一方で、配置計画や平面計画において、その提案の意図の説明が乏しい印象を与えました。ヒアリングにおいてもその印象を払拭することができませんでした。病棟の配置や感染対策などでも課題がありました。

5 まとめ

プロポーザルは提案をもとにした設計者の選定です。各提案の内容（量と質）とともに、そこに至る考え方やその根拠、意欲等を提案書とヒアリングから評価し、審査するものです。また各提案には実現性や具体性が伴う必要もありますし、その提案を説得するだけの「力」が求められます。その「力」は経験でもあり、提案書での説明・表現でもあり、さらにはヒアリングにおけるコミュニケーションでもあります。選定後、長い時間をかけて事業者と対話をしながら設計を進めていくパートナーの選定であることを考えると、提案に対する意志と思いの強さとともに、設計時に起こりうるさまざまな事象に対する対応力、柔軟性を合わせ持つ必要があります。また、一つ一つの課題に対しては、合意を得ながら的確に対応する力も求められます。最優秀案は、それらの点において十分対応可能な資質をもった設計者であると評価しました。コンセプトでもある地域住民のための「ケアリング・コミュニティ」の実現を大いに期待するものであります。

プロポーザルに参加された皆様のより一層の研鑽と発展、福島県の建築文化のさらなる質の向上を願っております。

最後に、奥会津地域における持続可能な医療提供を確保するため、本プロポーザルの提案課題に真摯に向き合い、自由な発想で、意欲的かつ多様な提案をくださった6者の提案者に対して、審査委員一同、心から敬意と感謝の意を表します。

令和5年12月6日

宮下病院建替え基本・実施設計業務委託公募型プロポーザル審査委員会

委員長：石井 敏（東北工業大学建築学部建築学科教授）

副委員長：浦部 智義（日本大学工学部建築学科教授）

委員：鎌田 一宏（公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター特任教授）

委員：太田 紀之（福島県厚生農業協同組合連合会坂下厚生総合病院事務次長）

委員：横山 秀二（福島県立宮下病院長）

委員：佐瀬 守昭（福島県土木部営繕課長）

委員：高橋 英子（福島県病院局次長）